

歴代誌第一 14 - 17 章 「神の箱の前のダビデ」

1 A エルサレムの王権 14

1 B 王宮と家族 1 - 7

2 B バアル・ペラツィム 8 - 17

2 A 神の箱の運搬 15

1 B レビ人による担ぎ 1 - 15

2 B 歌うたい 16 - 29

3 A 主への詩歌 16

1 B 主の記憶 1 - 36

2 B 毎日の務め 37 - 43

4 A ダビデ家の約束 17

1 B 主の恵み 1 - 15

2 B 圧倒されるダビデ 16 - 27

本文

歴代誌第一 14 章を開いてください。私たちは前回、ダビデのところに数多くの勇士たちが集まってきたところを読みました。サウルが死んだ時には、すでに数多くの者たちが全イスラエルから集まっており、ヘブロンで王となっていたダビデを全イスラエルが王としました。このように軍人としてのダビデを見ますが、歴代誌では全く異なる側面のダビデを見ます。それは彼が神への礼拝を指揮していることです。彼自身は王なので、彼が礼拝を導くことはありませんでしたが、礼拝を導く祭司とレビ人を指導して、何を行なわなければいけないかを教えていきました。そしてこれから読む聖書箇所では、これまでの礼拝において見受けられなかった奉仕、主への歌をうたうことが書かれています。しかも、その主への歌は神の箱を前にして行われる、という中心的部分を読みます。

1 A エルサレムの王権 14

13 章では、ダビデが祭司とレビ人を集めて、キルヤテ・エアリムに安置されていた神の箱をエルサレムに運ばせようしました。けれども牛車の上に載せて運んだため、それが倒れそうになった時に手で押さえようとしたウザが打たれ、死んでしまいました。ダビデは、このことで激して・・・そうですね、私たちは神の家の中で罪や過ちがあれば、その初めの反応は激することです・・・そして、オベデ・エドムの上に神の箱を安置させました。このままでは主の前に出ていくにはふさわしくないと考えたからです。けれども、オベデ・エドムの家が祝福されました。主が、今度は悔い改めた形で、主の御心のとおりに神の箱を運ぶことによってこれを豊かに祝福してくださいと判断したのです。

この話の続きは 15 章にあります。その前、14 章ではエルサレムにおけるダビデの王権が確立されることを読みます。

1 B 王宮と家族 1 – 7

14:1 ツロの王ヒラムは、ダビデのもとに使者を送り、ダビデの王宮を建てるために杉材、石工、大工を送った。

14:2 ダビデは、主が彼をイスラエルの王として堅く立て、主の民イスラエルのために、彼の王権がいよいよ盛んにされているのを知った。

ダビデの王宮に対してツロの王がその資材を調達してくれます。このことによって、周囲の諸外国でさえがイスラエルに協力的であることを知ります。彼は自分が優れているのでも、力があるのでもなく、主がこのようにしてくださったという、神に栄光を帰しています。

14:3 ダビデはエルサレムで、さらに妻たちをめとった。ダビデはさらに、息子、娘たちを生んだ。14:4 エルサレムで彼に生まれた子の名は次のとおり。シャムア、ショバブ、ナタン、ソロモン、14:5 イブハル、エリシュア、エルペレテ、14:6 ノガハ、ネフェグ、ヤフィア、14:7 エリシャマ、ベエルヤダ、エリフェレテ。

王宮もでき、息子、娘たちも与えられました。

2 B バアル・ペラツィム 8 – 17

そして宿敵、ペリシテ人が即位して間もないダビデに攻めてきます。

14:8 ペリシテ人は、ダビデが油をそそがれて全イスラエルの王となったことを聞いた。そこでペリシテ人はみな、ダビデをねらって上って来た。ダビデはそれと聞き、彼らを迎え撃ちに出た。14:9 ペリシテ人は来て、レファイムの谷間に突入した。

レファイムの谷間は、エルサレムの南西に斜め向きで走っています。ペリシテ人の住む地中海沿岸から、そのままエルサレムに上ることのできる谷間です。

14:10 そこで、ダビデは神に伺って言った。「ペリシテ人を攻めに上るべきでしょうか。彼らを私の手に渡してくださいませんか。」すると主は彼に仰せられた。「上れ。わたしは彼らをあなたの手へ渡す。」14:11 それで、みなはバアル・ペラツィムに上り、ダビデはそこで彼らを打った。そして、ダビデは言った。「神は、水が破れ出るように、私の手を用いて私の敵を破られた。」それゆえ、その場所の名はバアル・ペラツィムと呼ばれた。14:12 彼らが自分たちの神々を置き去りにして行ったので、ダビデは命じて、これを火で焼いた。

興味深いですね、当時の戦争はこのように神々の偶像や、祭具をもってきて戦います。ダビデはこれらに悪

い興味を持つことなく、すぐに火で焼き処分しました。けれどもかつて、イスラエルもこれと同じノリで神の箱を戦場に持ってきました。それでペリシテ人にそれを奪われて、それらい神の箱がイスラエルから失われてしまったのです。数か月してイスラエルのところに戻りましたが、何十年経った今も人が死んでしまうという、まだ、神の箱を中心に礼拝ができていない状態です。まだ異教の影響が残っていたので、主の前で大胆に、自由に礼拝ができていなかったのです。私たちキリスト教会が、リバイバル、大勢の人々の救いを！と叫びますが、もし私たちに大多数の人が救われたとしたら準備がはたしてできているでしょうか？イスラエルと同じように、むしろ肉に反応して混乱が起こりやしないでしょうか？主は霊的大覚醒を願われております。けれども、その前に、私たちがリバイバルする必要があります。

14:13 ところがペリシテ人は、なおもまたその谷間に突入して来た。14:14 そこで、ダビデがさらに神に伺ったところ、神は彼に仰せられた。「彼らを追って上って行くな。彼らには面と向かわず、回って行き、バルサム樹の林の前から彼らに向かえ。14:15 バルサム樹の林の上から行進の音が聞こえたら、そのとき、あなたは戦いに行け。神はすでに、ペリシテ人の陣営を打つために、あなたより先に出ているから。」14:16 ダビデは、神が彼に命じたとおりにし、彼らはギブオンからゲゼルまでのペリシテ人の陣営を打った。

ここで優れているのは、ダビデが過去に抛り頼まなかったことです。同じように谷間に突入してきたけれども、彼は再び主に伺いを立てました。そして、祈って良かったですね、主は異なる方法を備えておられました。ギブオンからゲゼルという、エルサレムから北西にある地域にペリシテ人は陣営を張っていましたが、それはダビデが主に伺いを立てたから、主の導きに従うことができ勝利することができたのです。私たちが過去がこうだったから・・・という理由を付けることは良くありません。まず祈るのです。そして主に導いていただきます。

14:17 こうして、ダビデの名声はあまねく全地に及んだ。主はすべての国々に、彼に対する恐怖を起こされた。

ペリシテ人との戦いでイスラエルは長いこと悩まされていました。けれども、圧倒的、決定的な勝利で、ここからペリシテ人は完全に劣勢に立ちます。周辺諸国に恐れを与え、これからはイスラエルがこれらの諸国を征服していくようになります。

2 A 神の箱の運搬 15

それでは、神の箱の運搬の話に入ります。

1 B レビ人による担ぎ 1 – 15

15:1 彼はダビデの町に自分のために家を作り、また、神の箱のために場所を定め、そのために天幕を張った。

ダビデの神の箱に対する慕い求める心が伝わってきます。自分の家がいつも主のご臨在のところにいたい、という思いです。有名な詩歌を思い出します。「私は一つのことを主に願った。私はそれを求めている。私のいの

ちの日の限り、主の家に住むことを。主の麗しさを仰ぎ見、その宮で、思いにふける、そのために。(27:4) 」

15:2 そのとき、ダビデは言った。「レビ人でなければ、神の箱をかついではならない。主は、主の箱をかつがせ、とこしえまでも、ご自身に仕えさせるために、彼らを選ばれたからである。」15:3 ダビデは全イスラエルをエルサレムに呼び出して、主の箱を定めておいた場所へ運び上げようとした。15:4 そこで、ダビデは、アロンの子らとレビ人とを集めた。15:5 ケハテ族から、そのつかさウリエルと、彼の同族の者百二十人。15:6 メラリ族から、そのつかさアサヤと、彼の同族の者二百二十人。15:7 ゲルシヨム族から、そのつかさヨエルと、彼の同族の者百三十人。15:8 エリツアファン族から、そのつかさシェマヤと、彼の同族の者二百人。15:9 ヘブロン族から、そのつかさエリエルと、彼の同族の者八十人。15:10 ウジエル族から、そのつかさアミナダブと、彼の同族の者百十二人。

ダビデは、だれもが神の箱を運ぶことができるのではない、神に仕えるように選ばれたレビ人のみが仕えることができるのだ、と強く確信を抱いています。私たちはレビ記と民数記で学びました、祭司とレビ人が神に選ばれ、水による洗いを受け、動物の血による聖別を受け、また全焼のいけにえによって自身を神にささげた者によってのみ、神の箱の前に立つことができるのだ、ということです。

神の箱は、神の御座そのものを表しています。天にある神の御座そのものを表しています。聖なる神がシナイ山に降りてこられた時に、ふもとに境が設けられて、その中に入ってくるならば殺されてしまいました。それだけ神は聖なる方であり、その御座は触れることができないのです。だから、神に選ばれ、任じられ、聖別を受けた者しか行くことができません。新約時代には、キリストにあつて選ばれ、呼ばれ、キリストの血と御霊によって罪が洗われ、聖められた者、キリスト者のみが神の御座の前に出ることができます。

15:11 ダビデは祭司ツアドクとエブヤタル、それにレビ人たち、ウリエルとアサヤ、ヨエルとシェマヤ、エリエル、アミナダブを呼び、15:12 彼らに言った。「あなたがたはレビ人の家のかしらです。あなたがた自身も、あなたがたの同族の者たちも、身を聖別し、イスラエルの神、主の箱を、私がそのために定めておいた所に運び上りなさい。15:13 最初の時には、あなたがたがいなかったため、私たちの神、主が、私たちに怒りを発せられたのです。私たちがこの方を定めのとおり求めなかったからです。」15:14 そこで、祭司たちとレビ人たちは、イスラエルの神、主の箱を運び上げるために身を聖別した。15:15 そして、レビ族は、モーセが主のことばに従って命じたとおり、神の箱をにない棒で肩にかついだ。

神の箱のことを思い出してください。そこには、棒が二つ付いていました。その棒を外してはいけないという命令もありました。それはレビ人が担ぐ時に箱に触れないようにするためです。神の御座には接することのないためであります。

そして「モーセが主のことばに従って命じたとおり」とあります。私たちは主に仕えるのは、その方法も主から教

え導かれなければいけません。牛車に載せて運ぶと言う方法は、ペリシテ人が行っていた方法です。つまり、世的に主の働きをしようとしたのです。主に命じられたことを、はっきりしていること、目の前に与えられている事を行っていないのに、主の働きをしようとしても祝福されないのです。

2 B 歌うたい 16 - 29

15:16 ここに、ダビデはレビ人のつかさたちに、彼らの同族の者たちを十弦の琴、立琴、シンバルなどの楽器を使う歌うたいとして立て、喜びの声をあげて歌わせるよう命じた。15:17 そこで、レビ人は、ヨエルの子ヘマン、彼の同族からベレクヤの子アサフ、メラリ族から彼らの同族クシャヤの子エタンを立てた。15:18 第二の部類に属する彼らの同族の者たちも、彼らとともにいた。すなわち、ゼカリヤ、ベン、ヤアジエル、シエミラモテ、エヒエル、ウニ、エリアブ、ベナヤ、マアセヤ、マティテヤ、エリフェレフ、ミクネヤ、門衛オベデ・エドムとエイエル。15:19 歌うたいは、ヘマン、アサフ、エタン。彼らは青銅のシンバルを用いて歌った。15:20 ゼカリヤ、アジエル、シエミラモテ、エヒエル、ウニ、エリアブ、マアセヤ、ベナヤは、十弦の琴を用いてアラモテに合わせた。15:21 マティテヤ、エリフェレフ、ミクネヤ、オベデ・エドム、エイエル、アザズヤは、八弦の立琴に合わせて指揮した。

ダビデは、神の箱を主への歌によって囲もうとしています。琴、立琴、シンバルなどの楽器を使わせています。これまで、例えばモーセの姉ミアムが、タンバリンを使って主をほめたたえましたが、このような大がかりで行ったのは初めてです。これはダビデが単に音楽好きだったから、そうしたのでしょうか？ いいえ、ダビデはモーセ以上に、神の国についての啓示を受けていたのです。黙示録 5 章 8-10 節を読んでみます。「彼が巻き物を受け取ったとき、四つの生き物と二十四人の長老は、おのおの、立琴と、香のいっぱいはいった金の鉢とを持って、小羊の前にひれ伏した。この香は聖徒たちの祈りである。彼らは、新しい歌を歌って言った。「あなたは、巻き物を受け取って、その封印を解くのにおさわい方です。あなたは、ほふられて、その血により、あらゆる部族、国語、民族、国民の中から、神のために人々を贖い、私たちの神のために、この人々を王国とし、祭司とされました。彼らは地上を治めるのです。』」

これは天における情景です。御座の周りにいる四つの生き物と二十四人の長老たちが、立琴をもって新しい歌をうたっています。これが天なのです。したがって、主はダビデに天を啓示されました。彼は主を心から慕っている中で、天の啓示を受けました。礼拝はいけにえを捧げるだけでなく、讃美の歌が非常に重要な部分を占めることを示されていたのです。これでわかりますね、なぜ私たちが讃美をしているのか？ それは、私たちがこの地上にいながらにして、御霊によって天を体現するためです。神の御座の前にひれ伏し、主に歌うのです。ですから、讃美は説教のウォーミングアップだと思っていたら、天に引き上げられてから衝撃を受け、自分のとんだ間違いに恥ずかしくなることでしょう。

15:22 レビ人のつかさケナヌヤは荷物の係りで、荷物のことを指図した。彼はそれに通じていたからである。15:23 ベレクヤとエルカナは、箱を守る門衛であった。15:24 祭司たち、すなわち、シェバヌヤ、ヨシャパテ、ネタヌエル、アマサイ、ゼカリヤ、ベナヤ、エリエゼルは、神の箱の前でラッパを吹き鳴らす者、オベデ・エドムとエヒヤ

は箱を守る門衛であった。

神の箱を運ぶ時に、音楽を奏でるだけでなく、箱が外部からのもので損なわれることのないようにその周辺にいて守ります。

15:25 こうして、ダビデとイスラエルの長老たち、千人隊の長たちは行って、喜びをもって主の契約の箱をオベデ・エドムの家から運び上ろうとした。15:26 神が、主の契約の箱をかつぐレビ人を助けられたとき、彼らは七頭の雄牛と七頭の雄羊とをいけにえとしてささげた。15:27 ダビデは白亜麻布の衣を身にまとっていた。箱をかつぐすべてのレビ人、歌うたいたち、荷物係長ケナヌヤ、歌うたいたちも、同様であった。ダビデは亜麻布のエポデを着けていた。15:28 全イスラエルは、歓声をあげ、角笛、ラッパ、シンバルを鳴らし、十弦の琴と立琴とを響かせて、主の契約の箱を運び上った。15:29 こうして、主の契約の箱はダビデの町にはいった。サウルの娘ミカルは、窓から見おろし、ダビデ王がとびはねて喜び踊っているのを見て、心の中で彼をさげすんだ。

すばらしいですね、主の前で喜びに満ちています。これがキリスト者の姿です。御霊の実の現れの一つは、「喜び」です。ネヘミヤ記には、モーセの律法をエズラが読んでいて、祭司たちが解き明かし、それを聞いて自分の罪が示されて悲しんでいた人々がいきました。けれども、エズラもネヘミヤも、「悲しんではならない。主を喜ぶことは、あなたがたの力であるから。（ネヘミヤ 8:10）」と励ましました。私たちは讚美を楽しんでいるでしょうか、主を大いに喜んでいるでしょうか？

そしてダビデが、白亜麻布の衣を身にまとっています。他のレビ人も同じです。これは二点ですごいことです。一つは王服を脱いでいることです。ダビデは神にはえこひいきがなく、すべてが裸にされていることを知っていました。主の前では平民も王も一つであることを知っていました。そして、レビ人と同じ白い亜麻布の衣、すなわち贖いの血によって罪が決められたその白色を表しています。教会に対して、主は白い衣を着せることを約束されています（黙示 3:4）。

対照的な人としてミカルがいます。主の前で喜んでいるダビデと、人の前の面子を気にして、さげすんでいるミカルです。私たちは主を気にしているでしょうか、人の目を気にしているでしょうか？

3 A 主への詩歌 16

ついに、エルサレムに神の箱が運び込まれました。ここでダビデはさらに祝祭を設けます。

1 B 主の記憶 1 – 36

16:1 こうして、彼らは、神の箱を運び込み、ダビデがそのために張った天幕の真中に安置した。それから、彼らは神の前に、全焼のいけにえと和解のいけにえをささげた。16:2 ダビデは、全焼のいけにえと和解のいけにえをささげ終えてから、主の名によって民を祝福した。16:3 そしてイスラエルのひとりひとりみなに、男にも女に

も、それぞれ、丸型のパン、なつめやしの菓子、干しぶどうの菓子を分け与えた。

ここまでは、サムエル記第二にも書いてあることです。歴代誌は次の重要な出来事を書き加えています。

16:4 それから、レビ人の中のある者たちを、主の箱の前に仕えさせ、イスラエルの神、主を覚えて感謝し、ほめたたえるようにした。

レビ人たちを神の箱の前で、ほめたたえるようにさせました。おもな働きは、主を覚えるようにさせることです。主ご自身を思い出す、そして主が行われた御業を思い出します。覚えて忘れないようにします。それから感謝を捧げます。主がおられること、主が行われたことを覚えて感謝するのです。そのことによって、ほめたたえることができるようになります。

16:5 かしらはアサフ、彼に次ぐ者は、ゼカリヤ、エイエル、シエラモテ、エヒエル、マティテヤ、エリアブ、ベナヤ、オベデ・エドム、エイエル。彼らは十弦の琴や、立琴などの楽器を携え、アサフはシンバルを響かせた。16:6 祭司ベナヤとヤハジエルは、ラッパを携え、常に神の契約の箱の前にいた。16:7 その日その時、ダビデは初めてアサフとその兄弟たちを用いて、主をほめたたえた。

ダビデはこれまで、自分だけで、立琴で主をほめたたえることはありましたが、初めてレビ人を用いて主をほめたたえました。これから見る詩歌は、午前礼拝でも話しましたように、ダビデがこのように主をほめたたえるのだという指示を与えているような内容になっています。詩篇の内容の一部が組み合わせられたものになっています。105 篇、96 篇、106 篇のそれぞれ一部です。私たちの礼拝讃美でも、実はある人が作った歌が編集されて、文字を変えたり、繰り返しを増やしたりなど、アレンジを加えています。当時も同じだったのでしょうか。そして、ダビデはアサフを用いていますが、詩篇にはアサフの作詞したものが多く出てきます。

16:8 主に感謝して、御名を呼び求めよ。そのみわざを国々の民の中に知らせよ。16:9 主に歌え。主にほめ歌を歌え。そのすべての奇しみわざに思いを潜めよ。16:10 主の聖なる名を誇りとせよ。主を慕い求める者の心を喜ばせよ。16:11 主とその御力を尋ね求めよ。絶えず御顔を慕い求めよ。16:12 主が行なわれた奇しみわざを思い起こせ。その奇蹟と御口のさばきとを。16:13 主のしもべイスラエルのすえよ。主に選ばれた者、ヤコブの子らよ。

午前礼拝でじっくり見ていきました。主に感謝して、御名を呼び求める。それから主に歌う。そして聖なる名を誇りとする。それから主を尋ね求める。そして、午前には話しませんでした。主のみわざを思い起こします。これは大事なプロセスです。私たちが御業を思い起こすことで、主が聖霊によって私たちに臨んでくださり、そして御心のままに今の私たちに御業を行なってくださいます。

そして、語りかけは「主のしもべイスラエルのすえよ。」となっています。まずはイスラエルの中で主の御業を思い起こし、それを周囲の民に伝えていくことが先決です。この内容がどんどん発展していきます。

16:14 この方こそ、私たちの神、主。そのさばきは全地にわたる。16:15 覚えよ。主の契約をとこしえに。お命じになったみことばは千代にも及ぶ。16:16 その契約はアブラハムと結んだもの、イサクへの誓い。16:17 主はヤコブのためにそれをおきてとして立て、イスラエルに対する永遠の契約とされた。

イスラエルの民は、アブラハムへの契約を思い起こす必要がありました。私たち教会は、キリストが血を流された新しい契約を思い起こします。

16:18 そのとき主は仰せられた。「わたしはあなたがたの相続地としてあなたに、カナンの地を与える。」16:19 そのころ、あなたがたの数は少なかった。まことにわずかで、そのうえここでは、寄留の他国人であった。16:20 彼らは、国から国へ、一つの王国から他の民へと渡り歩いた。16:21 しかし主は、だれにも彼らをしいたげさせず、かえって、彼らのために王たちを責められた。16:22 「わたしの油そそがれた者たちに触れるな。わたしの預言者たちに危害を加えるな。」

イスラエルに行われた神の奇しい御業を思い出しています。ヤコブの家族がラバンのところから故郷に戻る時に、彼らはシケムにいましたが、その時に娘ディナが凌辱を受けました。シメオンとレビがその住民を虐殺したのですが、そのためシケムから出ていかなければいけませんでした。ところが、周囲の民は彼らを恐れて、彼らをそのまま出したのです。主の恐れが彼らを襲ったからです。このようなことを神はしてくださいました。

16:23 全地よ。主に歌え。日から日へと、御救いの良い知らせを告げよ。16:24 主の栄光を国々の中で語り告げよ。その奇しいみわざを、すべての国々の民の中で。16:25 まことに主は大なる方、大いに賛美されるべき方。すべての神々にまさって恐れられる方だ。16:26 まことに、国々の民の神々はみな、むなしい。しかし主は天をお造りになった。16:27 尊厳と威光は御前にあり、力と歓喜はみもとにある。

先ほどは国々の民に知らせよ、という程度の勧めでしたが、今は、「全地よ。主に歌え。日から日へと、御救いの良い知らせを告げよ。」と大胆になっています。それで、天地創造の神と異邦人の神々との摩擦が起こります。けれどももちろん、彼らの神々よりはるかに優れた方であり、神々と呼ばれているものは空しいのです。

16:28 国々の民の諸族よ。主にささげよ。栄光と力を主にささげよ。16:29 御名の栄光を主にささげよ。ささげ物を携えて、御前に行け。聖なる飾り物を着けて、主にひれ伏せ。16:30 全地よ。主の御前に、おののけ。まことに、世界は堅く建てられ、揺らぐことはない。

諸国の民に主が伝えらえただけでなく、彼ら本人がイスラエル人と同じように、主に栄光をささげ、主に仕え

ています。これはイエス・キリストが再び戻られて全世界が神のものとされた時に実現します。

この詩歌はまさに、これは神の宣教命令の歌です。イスラエルに対する宣教命令です。イスラエルのうちに神が御業を起こしてくださり、イスラエルが異邦人に主を知らしめ、異邦人自身も主を知り、主をあがめるという順番です。この使命をユダヤ人は全うしませんでした。けれども、イエス・キリストによって実現しました。イエスの証しを、ユダヤ人はエルサレムからユダヤ・サマリヤに対して行うだけでなく、地の果てにまで行えという命令を守ったのです。そして、主が戻ってこられることを待ち望み、世界が主のものになることを希望していました。

ここから神が宣教の神であることが分かります。パウロもローマ 15 章で、旧約聖書を引用しながら、宣教の過程を次のように説明しています。「また異邦人も、あわれみのゆえに、神をあがめるようになるためです。こう書かれているとおりです。「それゆえ、私は異邦人の中で、あなたをほめたたえ、あなたの御名をほめ歌おう。」また、こうも言われています。「異邦人よ。主の民とともに喜べ。」さらにまた、「すべての異邦人よ。主をほめよ。もろもろの国民よ。主をたたえよ。」さらにまた、イザヤがこう言っています。「エッサイの根が起こる。異邦人を治めるために立ち上がる方である。異邦人はこの方に望みをかける。」(9-12 節) 異邦人の中で神をほめたたえるところから始まり、異邦人が神を喜び、ほめたたえるようになり、それからダビデの根、キリストが異邦人を治めるようになります。

私たちが、十字架にイエス様がつけられた後の弟子たちのように、戸を閉めて他のユダヤ人を怖がっているような、そのような臆病な者であっては決していけません。このような者たちの間にイエス様は現れて、「わたしはあなたがたを遣わす」と言われたのです。「その日、すなわち週の初めの日の夕方のことであった。弟子たちがいた所では、ユダヤ人を恐れて戸がしめてあったが、イエスが来られ、彼らの中に立って言われた。「平安があなたがたにあるように。」こう言ってイエスは、その手とわき腹を彼らに示された。弟子たちは、主を見て喜んだ。イエスはもう一度、彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。」そして、こう言われると、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。あなたがたがだれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦され、あなたがたがだれかの罪をそのまま残すなら、それはそのまま残ります。」(ヨハネ 20:19-23) 恐れている弟子たちに、イエス様は平安を与えられました。そして、イエス様が天から地に遣わされたように、弟子たちを地の果てにまで遣わされます。その使命を成し遂げるためにイエス様は聖霊を与えられました。

16:31 天は喜び、地は、こおどりせよ。国々の中で言え。主は王である。16:32 海とそれに満ちているものは鳴りとどろけ。野とそこにあるものはみな、勝ち誇れ。16:33 そのとき、森の木々も、主の御前で、喜び歌おう。確かに、主は地をさばくために来られる。16:34 主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。

最後は、異邦人のみならず、天地の自然界が主をほめたたえます。なぜなら主イエスが戻ってこられて、この

地を回復し、神の意図された状態に戻されるからです。

16:35 言え。「私たちの救いの神よ。私たちをお救いください。国々から私たちを集め、私たちを救い出してください。あなたの聖なる御名に感謝し、あなたの誉れを誇るために。」16:36 ほむべきかな。イスラエルの神、主。とこしえから、とこしえまで。それから、すべての民はアーメンと言い、主をほめたたえた。

最後はイスラエルの民に戻っています。イスラエルの民は現状は、異邦の国々の中に住んでいます。けれども、主が来られる時に彼らは異邦の国々から救い出されます。世界中に散っているユダヤ人たちがエルサレムに戻ることができます。私たちキリスト者も同じです。この世に生きていますが、この世から救い出されて、キリストが空中にまで天から降りてこられる時に、私たちはキリストのところへ引き上げられ、集められ、主と共にいることとなります。

2 B 毎日の務め 37 - 43

16:37 彼は、その場所、すなわち、主の契約の箱の前に、アサフとその兄弟たちをとどめておき、毎日の日課として、常に箱の前で仕えさせた。16:38 オベデ・エドムと彼らの兄弟たちは六十八人いたが、エドトンの子オベデ・エドムとホサを門衛とした。

祝祭は終わりましたが、その後も彼らが神の箱の前で主に仕えるようにさせました。そして天幕を守るために、門衛もつけました。

16:39 祭司ツアドクと彼の兄弟である祭司たちを、ギブオンの高き所にある主の住まいの前におらせ、16:40 全焼のいけにえを、朝ごと、夕ごとに、絶えず、また、すべて主のイスラエルに命じた律法に書かれているとおり、全焼のいけにえの壇上で、主にささげさせた。16:41 彼らとともにヘマン、エドトン、その他、はっきりと名の示された者で、選ばれた者たちを置き、主をほめたたえさせた。「まことに主の恵みは、とこしえまで。」16:42 ヘマンとエドトンの手には、歌う者たちのためにラッパとシンバルとがあり、また、神の歌に用いる楽器があった。また、エドトンの子は門にいた。16:43 民がみなそれぞれ自分の家に帰ってから、ダビデは自分の家族を祝福するために戻って行った。

神の箱は今、ダビデの家のそば、天幕の中にあります。けれども、神の幕屋はギブオンにありました。かつて幕屋はシロにありました。その時、神の箱が奪われたのですが、どこかの時点でシロからギブオンに幕屋を移したようです。神の箱がない状態で、その他の祭具、祭壇などはそこにあって、そこでいけにえを捧げていました。ダビデはこれを祭司に行うようにさせました。モーセの律法に、アロンの家系の者が行うように定められているからです。そして、ギブオンでも主に歌をうたうようにさせたようです。

4 A ダビデ家の約束 17

ここまでダビデは祝福されました。彼の心は燃えています。彼の思いは主への愛でいっぱいです。そこでダビデは、次のことをやりたいと友人で預言者のナタンに相談します。

1 B 主の恵み 1 - 15

17:1 ダビデが自分の家に住んでいたとき、ダビデは預言者ナタンに言った。「ご覧のように、この私が杉材の家に住んでいるのに、主の契約の箱は天幕の下にあります。」17:2 すると、ナタンはダビデに言った。「あなたの心にあることをみな行ないなさい。神があなたとともにおられるのですから。」

ダビデの純粋な思いが反映されています。主が主である美しさ、荘厳さを持つべきである。自分の家がもっと良いところに住むなんてまんざらおかしい、と思いました。それで主のために家を建てたいと思いました。

17:3 その夜のことである。次のような神のことばがナタンにあった。17:4 「行って、わたしのしもべダビデに言え。主はこう仰せられる。あなたはわたしのために住む家を建ててはならない。17:5 わたしは、イスラエルを導き上った日以来、今日まで、家に住んだことはなく、天幕から天幕に、幕屋から幕屋にいた。17:6 わたしが全イスラエルと歩んできたどんな所でも、わたしの民を牧せよとわたしが命じたイスラエルのさばきつかさのひとりにも、『なぜ、あなたがたはわたしのために杉材の家を建てなかったのか。』と、一度でも、言ったことがあろうか。

ダビデは主に何かしたいと思っていましたが、主ははっきりと、「わたしはそんなことを命じていない」と言われました。私たちが主を愛しているから、主に何か貢献したいと思いますが、いいえ、主に貢献することなど何一つできません。すべての良きことは主がすでに用意しておられます。私たちは主の命令を守り行うのみです。

17:7 今、わたしのしもべダビデにこう言え。万軍の主はこう仰せられる。わたしはあなたを、羊の群れを追う牧場からとり、わたしの民イスラエルの君主とした。17:8 そして、あなたがどこに行っても、あなたとともにおり、あなたの前で、あなたのすべての敵を断ち滅ぼした。わたしは地上の大いなる者の名に等しい名をあなたに与える。17:9 わたしが、わたしの民イスラエルのために一つの場所を定め、民を住みつかせ、民がその所に住むなら、もはや民は恐れおののくことはない。不正な者たちも、初めのころのように、重ねて民を押えつけることはない。17:10 それは、わたしが、わたしの民イスラエルの上にさばきつかさを任命したころのことである。わたしはあなたのすべての敵を屈服させる。わたしはあなたに告げる。『主があなたのために一つの家を建てる。』

主はダビデからお返しをもらう必要はなく、むしろ恵みの上に恵みを与えようとされています。羊飼いやイスラエルの君主にした神は、イスラエルに安住することのできる地を与えられます。そしてその国をダビデの家系に与えると約束されたのです。ダビデは家を主のために建てたいと願ったのですが、主はダビデに、「わたしが家を

与える。それは建物ではなく、あなたの家系、王朝だ。」ということです。

17:11 あなたの日数が満ち、あなたがあなたの先祖たちのもとに行くようになるなら、わたしは、あなたの息子の中から、あなたの世継ぎの子を、あなたのあとに起こし、彼の王国を確立させる。17:12 彼はわたしのために一つの家を建て、わたしはその王座をとこしえまでも堅く立てる。17:13 わたしは彼にとって父となり、彼はわたしにとって子となる。わたしはわたしの恵みをあなたの先にいた者から取り去ったが、わたしの恵みをそのように、彼から取り去ることはない。17:14 わたしは、彼をわたしの家とわたしの王国の中に、とこしえまでも立たせる。彼の王座は、とこしえまでも堅く立つ。」17:15 ナタンはこれらすべてのことばと、これらすべての幻とを、そのままダビデに告げた。

驚くべき約束です。これはダビデの息子ソロモンに対して与えられたような約束ですが、単なる息子ということではありません。世継ぎの子というのは、究極的にはメシヤご自身です。ダビデからメシヤが出てくる、ということです。そして、メシヤがダビデ王朝の王として永遠の御座に着かれて、とこしえの神の国を治められる、ということです。メシヤにとって神は父、神にとってメシヤは子です。神の独り子キリストであります。

2 B 圧倒されるダビデ 16 – 27

これまで恵んでくださって、感謝し、讚美していたダビデですが、もうここまですると彼は圧倒されて、語るべき言葉を失います。

17:16 ダビデ王は行って、主の前に座し、そして言った。「神、主よ。私がいったい何者であり、私の家が何であるからというので、あなたはここまで私を導いてくださったのですか。17:17 神よ。この私はあなたの御目には取るに足りない者でしたのに、あなたは、このしもべの家について、はるか先のことまで教えてくださいました。神、主よ。あなたは私を、高い者として見ておられます。17:18 このしもべに誉れを与えてくださったことについて、ダビデはこのうえあなたに向かって何をつけ加えることができます。あなたはこのしもべをよくご存じです。17:19 主よ。あなたは、このしもべのために、あなたのみこころのままに、この大いなることのすべてを行ない、この大いなることをすべて知らせてくださいました。17:20 主よ。私たちの耳にはいるすべてについて、あなたのような方はほかになく、あなたのほかに神はありません。

ダビデは言葉を失いました。「何を付け加えることができます」と言っています。今までは、あらゆる言葉をもって詩歌を作り、さまざまな楽器で主をほめたたえていましたが、その賜物をして、もう加えることができない、何も言えなくなってしまう、ということでもあります。黙示録には、イエス様が「アーメンである方」とありますが、そのとおり、アーメンとしか言えなくなってしまう状況です。

17:21 また、地上のどの国民があなたの民イスラエルのでしょうか。神ご自身が来られて、この民を贖い、これをご自身の民となさいました。あなたがエジプトから贖い出してくださいましたあなたの民の前から、国々を追い払

うという大いなる恐るべきことを行なって、名を得られるためでした。17:22 こうして、あなたの民イスラエルをとこしえまでもあなたの民とされました。主よ。あなたは彼らの神とされました。

自分自身だけでなく、ダビデは、イスラエルの民も主が引き上げてくださった、と話しています。

17:23 どうか、主よ。あなたが、このしもべとその家について約束されたことが、とこしえまでも真実をもって行なわれますように。あなたの約束どおりに行なってください。17:24 あなたの御名がとこしえまでも真実なものとされ、あがめられ、『イスラエルの神、万軍の主は、イスラエルの神。』と言われるように。あなたのしもべダビデの家が御前に堅く立ちますように。17:25 わが神よ。あなたは、このしもべの耳にはっきり、しもべのために家を建てよと言われました。それゆえ、このしもべは、御前に祈りえたのです。17:26 今、主よ。あなたこそ神であります。あなたは、このしもべに、この良いことを約束してくださいました。17:27 今、あなたは、おぼしめしにより、あなたのしもべの家を祝福して、とこしえに御前に続くようにしてくださいました。主よ。あなたが、祝福してくださいました。それはとこしえに祝福されています。」

ダビデはただ、「あなたのお言葉通りを行なってください」と祈っています。こうとしか祈れません。神の立てられたご計画以上に優れたものはないのですから。同じような祈りを捧げた人物がいます。ダビデの子孫であるマリヤ、イエスの母です。ガブリエルがマリヤにみごもった男の子が、ダビデの子、いと高き方の子になると告げました。そして聖霊によってみごもると告げられた時に、彼女はこう言いました。「ほんとうに、私は主のはしめです。どうぞ、あなたのおことばどおりこの身になりますように。（ルカ 1:38）」

実は私たちキリスト者は、ダビデのように、そしてマリヤのように祝福された者たちです。「私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神はキリストにおいて、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちを祝福してくださいました。（エペソ 1:3）」私たちがダビデのように、心から溢れるほどに神に感謝しているでしょうか？それとも、今受け取っているものを当然のことのように思い、感謝や喜びが出てこないでしょうか？またダビデ、またマリヤのように、主のことばが自分に実現することを望んでいるでしょうか？